

スワンネットに高い関心

室蘭 タイの医療関係者視察



製鉄記念室蘭病院で「スワンネット」について説明を受けるタンガルーンサンティ医師(右から2人目)

タイの医療関係者らが24日に来蘭し、室蘭市医師会(野尻秀一会長)などが運営する「地域医療介護ネットワーク」を視察した。海外からの視察は初めて。一行は、参加登録した住民の検査データや投薬情報を共有するシステムの内容や、セキュリティ面などに関心を寄せていた。

来蘭したのは、タイで病院などを運営するチャサリーホームの最高経営責任者(CEO)兼創設者のゲンボーン・タンガルーンサン

ティ医師ら2人。「スワンネット」の構築事業者・ヘルスケアリレイションズ(東京都調布市)の池川充洋代表取締役らと、いくた内科クリニック(港北町)、製鉄記念室蘭病院(知利別町)、介護老人保健施設「憩(同)」を視察した。

同病院では、地域医療連携室の鈴木正信室長が、急性期病院での活用法や地域医療での役割などを説明。タイで今後、サービス付き高齢者向け住宅を開発予定のタンガルーンサンティ医師は、具体的な活用例のほ

か、データ管理や安全面などについても、積極的に質問を寄せていた。

「スワンネット」は、西胆振管内の病院や診療所、歯科、薬局、介護事業所などを結んだ情報連携基盤を構築することで、検査データや投薬情報など、参加登録した住民の「医療・保健」などの過去情報」が確認できるシステム。

昨年1月に一部が稼働、4月から本格的にスタートした。回会によると、今月23日現在の参加登録者数は2万1341人で、管内全人口に対する参加率は11・65%。来月には道外から初の視察として、高知県の医療関係者らが来蘭する予定という。(松岡秀宜)